

新学習指導要領から見る一通知表評定を上げるために必要なこと(2)

学校は今年度より新学習指導要領の元での授業及び評価となります。新年度になってから、学校からはお知らせプリントが配布されたり、子ども達が映像を視聴させられたりと、様々なインフォメーションがあったようなのですが、どうも当塾の子ども達はピンときていません。特に中2、中3生は通知表評定の観点が今までの4つから、「知識」と「技能」をひとつにまとめた3つに変更になったことは承知出来ても、今までと評定の付けられかたがどう変わるのか、不安でいっぱいの様子です。実際、同じ学校の子ども達でも、学年が違えば「自主勉強は今までほど評定に関係なくなった。」と言う子もいれば、「今まで以上に評定に対する割合が大きくなった。」という子もいて、ばらばらです。石尾は今まで評価の対象であった計算帳の強制がなくなりましたね。そこで、学校に尋ねるわけにもいきませんので、文部科学省の発表した「改善通知」から読み取ってみたいと思います。ただし、あくまでも資料をもとに推測した私見ですので、実際の中学校の対処とは異なることも十分あり得ます。その点はご了承ください。

各教科の評価の観点は「主体的に学習に取り組む態度」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、この3つです。そのうちの「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」は、ペーパーテストを始めさまざまな活動の中で客観的に評価することができます。今回の第一回テストにおいて、石尾の中3生は「記述問題を半分出題する」と発表されました。概念から理解出来ていなければ答えられない、そして表現力がなければ正しく伝えられない記述問題での評価です。子ども達には深い理解と高い言語能力が要求されます。あきらめず磨くしか手はありません。いつも伝えているように、どの教科も言葉で説明できるよう頑張りたいと思います。残るは「主体的に学習に取り組む態度」です。何を評価され、どの程度評定に関わってくるのか、子ども達の最も気にしている部分です。文部科学省の指針には次のようにあります。

『主体的に学習に取り組む態度』については、①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力などを身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、②自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。」

つまり、自分にとって本当に必要な勉強に粘り強く取り組んでいるか、が評価されるのだと思われます。盲目的にやみくもに取り組んだものではせっかく大量にやっても良い評価はされず、逆に必要であるにもかかわらず十分に取組んでいなければ、これまた低い評価になります。既に覚えた英単語を書き続けていても意味はありません。粘り強くやりながらの調整

が必要なのです。では、どの程度やれば良い評価がいただけるのでしょうか。その答えは次の文言に表れているように思いました。

「ノートやレポート等における記述は、『知識・技能』や『思考・判断・表現』の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。」

この文章は情報が少なく、文意がはっきりとは読み取れませんが、教師に“観点の状況を踏まえた上で”評価しなさいと言っているのですから、一人一人の理解度、能力を見た上でノートも評価するよう言っているのでしょうか。「いくらきれいにノートを作成していても、いくらやる気のある言葉を並べていても、テストができていないようであれば、それは評価に値しない」と言っているように私には読めます。どこかの参考書を写せば、それはきれいにまとまったノートになります。しかし、そこに思考が伴っていなければ、先ほどの英単語と同じ単なる書写の時間です。それを書いた後、今度は真っ白いノートに何も見ずにどこまで書けるのでしょうか。どれだけ言葉で説明できるのでしょうか。できないのであれば、そのノート作成に費やした時間は全くの無駄な時間なのです。それは勉強ではありません。勉強とは、自分が理解出来ていないことを理解することです。それをやろうと粘り強く取り組み、結果につなげましょう。どの程度やれば良い評価がいただけるのかの答えは、“テストでその子にとって良い点数がとれるところまで”です。能力差がありますので、60点を目指す子もいれば100点を目指す子もいるでしょう。先生がテストを採点し、一人一人の理解状況を踏まえた上でノートも評価されるのでしょうか。子ども達にとってはある意味一切手の抜けない、本当の勉強ノートになります。しかし、自分の全力を出し切ってその上で勉強すれば、テストの点数も上がり、同時に「取り組む態度」への評価も上がるのです。無駄はゼロです。こんな有り難いことはありません。

以上「主体的に学習に取り組む態度」、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、これら3つの観点をもとに各教科の評定はつけられます。従来に比べて「態度」点の割合が大きくなるのか小さくなるのかと言われれば、4分の1だったものが3分の1になるわけですから大きくなると言えるのではないのでしょうか。ただし、実力アップに繋がらないものへの評価がされなくなり、今まであったノルマ的な物はほぼなくなると思われますので、子ども達の負担は小さくなると言えるでしょう。先の子ども達はどちらも間違っていない。ただ、自主勉強が評定にあまり響かなくなったわけでは決してなく、その内容が問われるようになったのです。その点をはき違えてはいけません。どれだけ自分の理解のために一生懸命に取り組んでいるか、そして結果につなげたか、ノートのページ数ではないところで先生は必ずご覧になっています。

評定を上げるために必要なこと、結論として一番大切なのは深く理解をしてテストできちんと点数を取ることです。点数が取れていなかった子は、どんなに勉強に時間をかけていたと言っても理解ができていない、あるいは練習不足だったのです。そこに時間も労力もかけるべきでしたね。学校も表面的な努力ではなくそれを勧めてくれる良い機会です。無駄な勉強を省き、自分の理解のために精一杯取り組みましょう。評定は自然とついてきます。勉強の王道ですね。